

2016年(平成28年)度 学校教育総合プランに沿った重点とする取り組みと評価

【 逗子市立小坪小学校 】

学校教育総合プランの柱 ① 授業づくり

2016年(平成28年)度

2017年(平成29年)度

2018年(平成30年)度

学校及び学年等の実態	学習意欲は年々向上しているが、筋道立てて考えること、自分の考えを相手にわかるように伝える力に課題がある。	どの学年・学級も落ち着いて授業に取り組んでいるが、自分の思いや考えをうまく伝え合う力に、まだ課題があると考えられる。	全体的に落ち着いており、授業にもしっかりと取り組んでいる。しかし、友だち同士のやりとりの中で、相手の気持ちをしっかりと受け止めた上での伝え合いという点で、まだ課題があると考えられる。
目標	校内研究及び研修の充実により、授業力の向上を目指す	校内研究及び研修の充実により授業力を向上させ、児童の学力向上を目指す。 新学習指導要領完全実施へのスムーズな移行ができるよう、計画的に準備を進める。	校内研究及び研修の充実により授業力・教師力を向上させ、児童の主体的に学ぶ力の向上を目指す。 新学習指導要領実施への移行期間に入り、完全実施に向けてスムーズな移行ができるよう、計画的な教育実践を確実にやっていく。
取り組み計画	指導力の維持、向上のために、校内研究と学年・学級経営とを一体として捉え、授業研究としての協働体制を確立する。	今年度より校内研究のテーマを新しく、教職員一人ひとりが主体的に研究に取り組むことによって、授業力向上を目指し、子どもたちの学力向上につなげていく。	「心豊かに思いや考えを伝え合う子の育成」を校内研究のテーマにしての2年目。教員一人ひとりが主体的に研究に取り組むことによって、授業力向上を目指し、子どもたちの確実な学力向上につなげていく。今年度は道徳を中心に研究を進めていくことで、日々の実践を通して学級経営の基盤とし、他教科や日常生活の中でも心豊かに自分の思いや考えを伝え合うという力を培うことを強く意識した指導を行っていく。
実践内容	少人数指導など多様な学習形態を活用し基礎・基本の習得のための指導の工夫に取り組む	国語科を中心に研究を進めていくことで、「話す・聞く」「読む・書く」「考える」力を育成し、日々の実践を通して学級経営の基盤とし、他教科や日常生活の中でも自分の思いや考えを伝え合うという力を培うことを強く意識した指導をおこなう。	今年度から、校内研究会では「特別の教科道徳」の授業づくりに取り組む。テーマである「心豊かに思いや考えを伝え合う子の育成」を、道徳の授業だけでなく他の教科でも十分に意識して授業改善に取り組んでいく。また、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指して取り組む。
評価	A	B	B
評価の根拠	3年生以上の全学年で、少人数指導を実施した。習熟度に応じた決め細やかな授業実践を目指し、指導法の工夫、改善を行った。その結果、児童のアンケートで授業理解度の肯定的な回答が上昇した。	今年度は国語科で研究を進めているが、昨年度までの3年間は算数を中心に研究に取り組んできた。同時に、算数の少人数授業については、今年度も2年生以上の学年の算数で実施した。しかし、全国学力・学習状況調査(6年生)の結果等を見ると、成果が上がっていない(学力向上していない)という結果であった。他学年の学力状況は調査を行っていないので不明であるが、今までの授業づくりについては、大きな課題が残った。	今年度、全国学力・学習状況調査(6年生)の結果として、理科では平均正答率が県・全国の数値を若干上回った。また、国語A・国語B・算数A・算数Bのいずれも、平均正答率が県・全国の数値を大きく上回っていた。また、学校全体として子どもたちは落ち着いて授業に取り組んでいる。しかし、各教科の授業の中で「心豊かに思いや考えを伝え合う」ということが十分にできているかという点、まだまだ課題があると思われる。そのことは、子どもたちの学校評価アンケートの中からも読みとれる。
課題	学習形態の工夫をさらに重ね、実践記録の蓄積と年間指導計画の充実を図るなどカリキュラムマネジメントを進める	各学年・各教科の学力・学習の状況を把握するような手立てを考え、その結果を踏まえての具体的方策を考えることが必要である。 ICTを活用したカリキュラムマネジメントづくりにも、学校として積極的に取り組んでいきたい。	来年度、今年度と同じテーマで、1・2年生では生活科を中心に、3～6年生では引き続き道徳を中心に授業研究を行っていく予定である。「主体的・対話的で深い学び」の実現を強く意識し、子どもたちの「心豊かに思いや考えを伝え合う」姿があるような授業づくりを目指していきたい。

2016年(平成28年)度 学校教育総合プランに沿った取り組みと評価

【返子市立小坪小学校】

学校教育総合プランの柱 ② 集団づくり

2016年(平成28年)度

2017年(平成29年)度

2018年(平成30年)度

<p>学校及び学年等の実態</p>	<p>集団で活動することを好み、だれとでも仲良くできる児童が多いが、小規模校で入学以前からの人間関係が、よくも悪くも固定しがちである。自分の気持ちや考えを相手にわかるように伝える力をさらにつける必要がある。</p>	<p>集団で活動することを好み、だれとでも仲良くできる児童が多い。また、ここ数年力を入れているたてわり活動の成果もあり、いろいろな人との関係の中で、よりよい人間関係を築く力がついてきているように思われる。</p>	<p>ここ数年力を入れている「たてわり活動」の成果もあり、よりよい人間関係を築く力がついてきていると考えられる。ただその中でも、友だちとの人間関係の面で悩みを抱えている児童も少なからず存在するので、よりよい人間関係づくりを促すような取り組みを意図的に実施していく必要性を感じている。</p>
↓			
<p>目標</p>	<p>児童の発達段階に応じて、集団生活をより楽しく充実させるための協調性や規範意識、リーダーシップやフォローシップを育む</p>	<p>たてわり活動・学級学年活動・委員会活動・クラブ活動・各種行事などさまざまな場面を通して、子どもたちが主体的に活動を行う中でよりよい人間関係づくりを目指す。</p>	<p>たてわり活動・学級学年活動・委員会活動・クラブ活動・各種行事など、さまざまな場面を通して、子どもたちが主体的に取り組める活動を意図的に取り入れることで、よりよい人間関係づくりを育む場となるように計画的な指導を行う。</p>
↓			
<p>取り組み計画</p>	<p>「小坪小スタンダード」の確認と改善に努めるとともに、たてわり活動の充実を図る。</p>	<p>「小坪小スタンダード」「小坪小みんなのやくそく」をもとに、たてわり活動を中心とした子どもたちの主体的活動とし、さらなる充実を図る。</p>	<p>子どもたち自身で「小坪小スタンダード」「小坪小みんなのやくそく」の意義を考えさせる機会をつくり、「たてわり活動」を中心とした子どもたちの主体的活動を多く取り入れること、また、全学級で「アサーショントレーニング」のプログラムを計画的に実施することで、よりよい人間関係づくりのための取り組みの充実を図る。</p>
↓			
<p>実践内容</p>	<p>たてわり集団を組織し、学校行事の中で他者への関心や愛着、思いやりや信頼感を高める機会</p>	<p>さまざまな活動(たてわり活動・学級学年活動・委員会活動・クラブ活動・各種行事 等)の中で、たてわり班としての活動が生きるような形を工夫する。</p>	<p>小坪小学校のよき伝統であるたてわり活動をさらに工夫・充実させることや、全学級で「アサーショントレーニング」のプログラムを計画的に実施する、さらに、毎週の道徳の授業を充実させることなどを通して、子どもたちのよりよい人間関係づくりを育む取り組みとする。</p>
↓			
<p>評価</p>	<p>A</p>	<p>A</p>	<p>B</p>
<p>評価の根拠</p>	<p>学校行事だけでなく、兄弟たてわりタイムやたてわり給食、たてわり遠足など年間を通じて異年齢集団での活動を取り入れ、各学年の発達段階に応じた目標を設定し取り組むことができた。</p>	<p>たてわり活動を充実させることで、よりよい人間関係づくりのために効果的であった。また、「小坪小スタンダード」「小坪小みんなのやくそく」を学校生活の指針とすることも、たいぶ定着してきたと考えている</p>	<p>今年度も、さまざまな場面でたてわりの班・クラスでの活動を行った。その中で、学年が上がるにつれて子どもたちがやさしく、そしてたくましく成長していく姿が随所で見られた。また、各学級においてよりよい集団づくりを目指して取り組んでいく中で、全体としておおむね達成できたとは思われるが、まだ一部、規範意識の低い児童、授業に集中できない児童、落ち着いて話が聞けない児童、友だちの気持ちを推し量れない児童などがあり、結果としてよりよい集団と云うには少し難がある面も見られた。さらに粘り強く指導・支援をしていく必要がある。</p>
↓			
<p>課題</p>	<p>異年齢集団の中でリーダーシップやフォローシップを、楽しい活動だけではなく、奉仕的な活動の中でも育てていくように取り組む必要がある。</p>	<p>たてわり活動を充実させることで成果を上げてきているが、教職員も児童もマンネリ化してしまわないよう、よりよい活動となるような見直しをしていくことが必要である。また、「小坪小スタンダード」「小坪小みんなのやくそく」についても、教職員・児童の意識が薄らいでしまうことのないよう、これらのことがある意義など、児童に考えさせる機会を持つことが必要である。</p>	<p>学級など集団での指導場面において、支援が必要な児童に対して1人の指導者だけでは十分に指導・支援が行き届かないという場面があった。限られた教職員の中で、子どもたちの実態をしっかりと把握し、それぞれの集団にとってよりよい指導体制をつくっていくことが大切である。また、個別に指導・支援をする場面も、計画的に行っていかなければならない。</p>

2016年(平成28年)度 学校教育総合プランに沿った取り組みと評価

【返子市立小坪小学校】

学校教育総合プランの柱 ③ 学校組織づくり

2016年(平成28年)度

2017年(平成29年)度

2018年(平成30年)度

<p>学校及び学年等の実態</p>	<p>児童の実態をきめ細かく把握するように努め、個に応じた指導の実践をめざし、支援教育の充実をめざすよう、取り組んでいる</p>	<p>教職員一人ひとりが学校運営組織をしっかりと意識して教育活動に取り組んでいる。特に個に応じた支援教育の充実にはいるが、まだ十分とはいえない状況である。</p>	<p>教職員一人ひとりが学校運営組織をしっかりと意識して教育活動に取り組んでいる。しかし、全ての子どもに対して、個に応じた丁寧な指導に努めているが、まだ十分とはいえない状況である。</p>
↓			
<p>目標</p>	<p>支援教室の運用に組織的に取り組み、支援教育の更なる充実をめざす</p>	<p>全児童を対象に、個に応じた支援が必要かどうかを見極め、必要な場合の支援を組織的な取り組みとして、さらなる支援教育の充実を目指す。</p>	<p>教職員一人ひとりが学校運営への参画意識を強く持ち、学校運営組織をしっかりと機能させることを意識して教育活動に取り組んでいきたい。そうすることで、子どもたち一人ひとりへの指導が行き届くようにしたい。全児童を対象に、丁寧で適切な指導・支援ができていくかをしっかりと見極め、さらなる支援教育の充実を目指す。</p>
↓			
<p>取り組み計画</p>	<p>教育相談コーディネーターを中心とした組織の充実を関係機関との連携を進め、組織的な対応をめざす</p>	<p>教育相談コーディネーター(3人)を中心とした支援のための活動を、関係諸機関との連携も密に行い、組織的・計画的に取り組んでいく。</p>	<p>・各4部会の活動が、グループリーダーを中心として各役員が主体的に取り組んでいけるよう、しっかりと計画的に進めていく。また、企画調整会議等では、各部会での取り組み状況を報告したり、他部会との連携を図ったりする場として有効に機能するようにしていく。 ・支援チームを中心とした支援体制のさらなる充実を目指す。 校内支援委員会・チーム会議・ケース会議・児童支援研修会 等</p>
↓			
<p>実践内容</p>	<p>授業についての自己チェックリストを活用し、授業のユニバーサル化を意識する。</p>	<p>・支援チーム(教育相談コーディネーター・管理職)を中心とした支援体制の確立 校内支援委員会・チーム会議・ケース会議・児童支援研修会 等 ・教職員の自己チェックリスト(授業・学級経営・児童指導・人権感覚)の活用</p>	<p>昨年度に引き続き、支援チーム(教育相談コーディネーター3名・管理職)を中心とした支援体制を充実させる。 4部会それぞれが責任を持って担当の仕事に取り組む。また、各部のリーダーは部内のとりまとめと学校全体を見通した動きをするとともに、他の教職員に対して積極的に情報発信をしていく。</p>
↓			
<p>評価</p>	<p><b>A</b></p>	<p><b>A</b></p>	<p><b>A</b></p>
<p>評価の根拠</p>	<p>どの子ども安心して、学習できるための人的、物理的環境の改善が、支援教育推進の要と考え、授業改善と支援体制の構築に取り組んできた。コーディネーターの不在などの事態にも学校全体として取組み一定の成果は挙げたと考えているが、組織的な対応にはまだ課題が残ること、個に応じた学習環境の整備においても学校全体での基準設定がまだできていないことなどからB評価とした。</p>	<p>支援チーム(教育相談コーディネーター・管理職)を中心とした支援体制は、年間を通してよく機能していた。特に個別の支援については充実していたと思われる。 学校運営組織の4部会については、4人の総括教諭がグループリーダーとして、自分の部会だけでなく全体を考えた上で業務を効率よく進めていくことができた。</p>	<p>支援チーム(教育相談コーディネーター3名・管理職)を中心とした支援体制は、忙しい中でもしっかりと機能していた。個別の支援についても、市の巡回チームなどとの連携もうまく取れていて、充実していたと考えられる。 4部会については、総括教諭3名と、もう一人のグループリーダーたちが、しっかりと部会をまとめるとともに、自分の部会だけでなく学校全体の動きを考えた上で業務を効率よく進めることができた。</p>
↓			
<p>課題</p>	<p>安心して学習できる場の提供としての少人数、習熟度グループ編成を維持、改善に努めること、相手のよさをそれぞれに認め合い、それぞれの違いを当たり前のこととして受け止められる関係の構築をさらにめざしていく。</p>	<p>支援を必要としている児童は年々増加の傾向にあるので、今後も支援にあたってはチームとして対応していけるようにしなければならない。児童のニーズは多岐にわたるため、対応する人材(数)を考えると物理的に難しい面があるが、今後もできる限り手厚い支援を実現していきたい。</p>	<p>支援を必要としている児童はやはり増加の傾向にあるので、今後も各個人の現状をしっかりと把握した上で、適切な支援となるようチームとして対応していきたい。人的には物理的に難しい面があるが、教育相談コーディネーターに過度の負担とならないように、授業時数などの配慮も考えたい。 学校運営組織については、働き方改革という視点も持って、適材適所で公平性があり、やりがいをもてるよりよい組織となるよう、工夫していかなければならない。</p>